

令和二年度 事業概況報告

I. はじめに

令和三年も5月を迎え、新型コロナウイルス感染症は衰えを見せない中で、第4波が襲来しております。この現状を鎮めるのはワクチン接種であります。我が国は、欧米諸国に比較して接種率は百分の一以下であり、ワクチンの製薬メーカーがロシア・中国製を除いては欧米諸国製が大半であり、国民の命を守る面からの折衝力は脆弱であり、戦後の政治体制が安全保障分野に限って、緊急事態と言い、欧米は非常事態と言うように、戦時体制を採っており、その差が製薬会社との交渉や国民への発出・周知に係る自由や権利についても徹底した法治を欠いており、国民も緊急事態宣言が発出されても緊張感がありません。現時の政府と自治体の対応は、「危機管理と思いつきは違う」中で“思いつき”の政策をとっており、政治指導者に戦略の欠如が如実にあらわれております。

現に最近では、PCR検査で二重変異種も多く全国で見受けられ、三度目の緊急事態宣言が発出されております。特養ホームや保育所等の社会福祉施設は医療従事者等の就業支援の重要な施設として運営を義務づけられ、日々「三蜜」禁止と言われる中で、特に「密集」、「密接」業務が避けがたい保育園・特養ホームでの感染予防に苦心しながら、運営を続けており、保育士や介護士等の職員は、緊張しながら日々業務に追われ疲弊しております。

利用されている高齢者には、家族との接見禁止措置をとっております。利用者の大切な家族は心のよりどころであり、身内と会ったり人と話したり、体を動かすことは生きる力の火を燃やす大切な行為であります。一方、保育園でもほとんど感染症対策で通常の行事は開催できなくなり、子どもにとっては不本意であり、職員も満足のできない保育が続いております。

さて、一年を通じては、職員の採用難になっており、我々も介護士・保育士採用にユーチューブに動画サイトを設け、リクルート活動を日々しておりますが、人材確保については大いに難儀しております。

II. 二年度 事業概況報告について

令和 参年度 3月末日の 各保育園・分園・歳児別 利用児童数 調書 I

| 保 育 園 名 (定員) | 0 歳児 | 1 歳児 | 2 歳児 | 3 歳児 | 4 歳児 | 5 歳児 | 計 |
|---------------------------------|---------|------|------|---------|------|------|-----|
| 白鳥保育園 (120) | 5 | 12 | 12 | 21 | 30 | 41 | 121 |
| 八幡分園 (60) | 8 | 14 | 12 | 15 | | | 49 |
| 小計 (180) (3歳未満児率) (37.1%) | 13 | 26 | 24 | 36 | 30 | 41 | 170 |
| 白鳥南保育園 (60) | 4 | 6 | 6 | 21 | 17 | 17 | 71 |
| 下手野分園 (30) | 4 | 7 | 10 | | | | 21 |
| 小計 (90) (3歳未満児率) (40.2%) | 8 | 13 | 16 | 21 | 17 | 17 | 92 |
| 青山保育園 (160) | 11 | 15 | 27 | 36 | 42 | 54 | 185 |
| 市役所北分園 (45) | 5 | 12 | 13 | 13 | | | 43 |
| 小計 (205) (3歳未満児率) (36.4%) | 16 | 27 | 40 | 49 | 42 | 54 | 228 |
| 計 (475) | 37 | 66 | 80 | 106 | 89 | 112 | 490 |
| (3歳未満児/ 以上児) | (37.3%) | | | (62.7%) | | | |

調書 1 は、各保育園・各分園の歳児別の利用児童数であるが、白鳥・白鳥南保育園 各分園が定員数に達していない現状に鑑み、地域社会との繋がりなさを露呈しており、今後の少子化が加速する中で、利用児童獲得のための誘因すなわち渉外活動を法人トップも率先し、活発化する必要があります。

特養ホーム「あおやま」は、世間では、介護士等の人材確保が至難と言われる中で、正規・非正規 併せて 要員が曲がりなりにも確保できていることは、運のいいことではありますが、一年間 通して 退職者

が延べ人数 17 人にもなり、職員の補充に今年も追われ通しの一年間でありました。しかし、3月31日末現在、特養ホームの利用者は 65 名（70 名 定員）・短期利用者 15.4 名、サービス定員 30 名〔**25 名** 一日平均利用者数〕であります。

別紙調書Ⅱは、各保育園・特養に従事した職員の職種別内訳人数です。各保育所や特養には、最低基準及び配置基準が法令等によって定められ、遵守するのは当然であります。しかし、該調書のように保育所の正規・パート保育士等々の要員配置は、最低基準で認められております。特養 あおやまについては、ある程度派遣人材に依存していることも人材難の現況では仕方がないことですか、安易に派遣人材に頼るだけでなく、直接雇用とのバランス及び当会との直接雇用移行へ促すことも肝要です。総務省は今年4月1日現在の人口推計を発表したところによると総人口に占める子どもの割合は 11.9%で、1975 年から 47 年連続で低下しています。今後の人口の近未来像を考慮した折には、保育士人材等々も含めて政府は、半世紀も少子化を食い止められなかった猛省に立ち、海外の方が Japan Dream を実現できる国として選ぶか、名古屋入管でスリランカ女性が死亡し、そのビデオが公開できないようでは、差別がある国として世界から認識され、認知症大国を克服したり、経済の現状維持、ましてや成長などはできません。

また、労働集約型事業では、雇用に係る効率運営を施設ごとの部分最適ではなく全体最適を心掛けていく必要があると考えております。我々国民も年金暮らしに夢見るのではなく、健康である限り、日々働くことも大切であります。

2 年度末の財務諸表については、当法人全体で、収入は、1.4%（昨年度 958,786 千円 → 本年度 972,674 千円）の増収で、支出は 2.1% 増（昨年度 840,896 千円 → 本年度 858,280 千円）になっており、各施設設備の借入金の元利返済合計額が 61 百万円となっております。

また、各種積立金合計額は、229 **百万円**で、前年同期より 21.8% 増となっており、手持ち現預金も 120 **百万円**で昨年度と同額程度で推移しており、手持ちの現金・預金・積立金の計は、349 **百万円**です。当期資金収支差額は 20,129 千円となっております。費用対効果で、今年度もサービス事業に期待するところが大きであったが、3～5 月は、新型コロナ ウイルス感染症があり、そのため利用控えもあり、

一年を通じて目標に達していないが、施設介護福祉事業は収支差額が開設4年目で コロナ禍にもかかわらず、少々 プラスになったことに安堵しております。

また、苦情処理委員会は、一年3回開催し、 介護士等や保育関係職員の施設内外等の研修会は、コロナ感染予防 並びに 介護・保育 専門的サービス、感染症を含むリスク管理等の研修を行い、職員の習熟をはかっております。

III. 終わりに

我が国の行政機構は前例主義にとらわれ、発想の転換がなかなかできないで国民・市民は大変迷惑しております。 新型コロナ対策の予算を出し惜しみすれば、国民の命も失われ、もちろん経済も長期に渡り、低迷し、社会保障の財源がなくなり、今よりもっと格差を生み、国民が迷惑すると思います。

こうした難しいコロナ ウイルスとの戦争には、「思考の三原則」に立ち返ることが肝要だと思っております。

第一 目先に捉われず長い目で見ると

第二 一面的に見ないで多面的 全面的に観察する

第三 枝葉末節にこだわることなく根本的に考察する

我々として、新型コロナ ウイルス感染症の問題は、もちろん阿鼻叫喚でもなく、 自然な流れに逆らわず、流れに乗って流れていき、美空ひばりが 謡う「川の流れのように」と、テレサ・テンが 唄う「時の流れに身をまかせ」の歌詞を合わせると「川の流れに身をまかせ」が人間の本質であり、何人も 山あり、谷ありの重荷を背負うものだと思っており、V字回復は容易なことではないが、「After コロナ」だけでなく、「With コロナ」の世界も意識せざるを得ない状況の今は我慢し、乗り越えるときだと考えております。

以上